

山川の文化財第八集

山川町の歴史

— 指定文化財 —

鹿児島県揖宿郡山川町教育委員会

目次

発行にあたって	1
指定文化財一覧	2
指定文化財地図	3
ソテツ自生地	4
山川薬園跡及びリュウガン	6
鰻地藏板碑	8
小川六地藏幢	10
正龍寺宝珠付角柱石塔婆	12
成川板碑	14
旧正龍寺跡墓石群	16
田の神石像	18
地頭仮屋跡石堀	20
成川十一面観音座像及び石殿	22
前田利右衛門墓石	24
奥付	26

発刊にあたって

文化財は、祖先のたくましい創造力、たゆまざる努力によって生み育てられた貴重な財産であります。

私たちは、これらの文化財を損傷したり破壊することなく、完全な姿で、次の世代に伝えてゆく責務を負っています。

私たちの山川町では、文化財保護条例が昭和四十七年に制定されるとともに、文化財保護審議会が発足し、精力的に文化財の調査研究と活用が図られているところであります。

この第八集では、そうした文化財の中で、特に貴重だとして指定された国・県・町の指定文化財の概略をまとめました。関係者の方々が、これによって「わがふるさと山川」の歴史に、より一層の関心を深めていただければ幸いです。

昭和六十二年三月三十日

山川町教育委員会

教育長 山下三郎

山川町指定文化財一覽

指定区分	名称	所在地	所有者 管理	指 定 年 月 日	地 図 番 号
国指定特別 天然記念物	ソテツ自生地	福元竹山 岡児ヶ水赤水,長崎	山 川 町	昭.27.3.29	1の1 1の2
県指定史跡 天然記念物	山川薬園跡及び リュウガン	新生町35	山 川 町	昭.29.3.22	②
町 指 定 有形文化財	鱧地藏板碑	鱧地藏坂6261	林田スミエ	昭.50.1.24	③
~	小川六地藏幢	小川納骨堂前	小 川 区	昭.49.7.16	④
~	正龍寺宝珠付 角柱石塔婆	福元5780	福 元 区	昭.49.7.16	⑤
~	成 川 板 碑	成川井手方1204	中園 栄二	昭.49.7.16	⑥
~	旧正龍寺跡 墓 石 群	福元5780	福 元 区	昭.56.10.6	⑤
~	田の神石像	成川下原937	入佐カエノ	昭.56.10.6	⑦
~	地頭仮屋跡 石 塙	新生町84 (町役場)	山 川 町	昭.56.10.6	⑧
~	成川十一面 観音座像及び石殿	成川大坪1016の2	谷口 隆	昭.60.10.24	⑨
~	前田利右衛門 墓 石	岡児ヶ水東村 2159堂ノ間墓地	前田 美鶴	昭.60.10.24	⑩

山川町文化財地図



ソテツ自生地附近の地図



国 指 定
特別天然記念物

ソテツ自生地

(指定 昭和二十七年三月二十九日)

この辺一帯にあるソテツは、自生している
ものです。ソテツ科の植物は数種類ありますが、ほとんどが、熱帯、または亜熱帯に生育
しています。

そのうちの一種だけが、ここ山川や坊津、
佐多、内之浦の四ヶ所に生育し、日本におけ
る「自生の北限」となっています。このため
国の特別天然記念物に指定されています。

このように、この自生地は、学術的に極め
て貴重であり、荒したり、盗みとることは、
法で厳重に禁じられています。

山川菜園跡地附近の地図



山川薬園跡及びリュウガン

県指定史跡
天然記念物

(指定 昭和二十九年三月二十二日)

このリュウガンの樹を中心とした一帯には薩摩藩で最も古い薬園がありました。(万治元年一六五九年に開園) 当時は、山川の島津薬園とよばれ、レイシ・ハズ・キコク・カンラン・リュウガンなどの薬草が数多く植えてあったといわれています。

現在は、熱帯に生育するムクロジ科のリュウガン(樹齢三百年と推定)が残されているだけです。この樹は、いまも直径一五cm程の茶褐色の実をみられています。明治の終り頃までは、東京にあった島津邸へも献上されていたと伝えられています。

薬園の「史跡」と「天然記念物」としての意義をあわせもつ大切な文化財です。

鰻地藏板碑附近の地図



町指定
有形文化財

鰻地藏板碑

(指定 昭和五十年一月二十四日)

鰻地藏板碑は、南北朝時代の元徳四年(一三

三二)約六五〇年前)に造立され、「地藏」を表現す

る梵字が刻まれています。かたわらの御堂に

も、木像の地藏菩薩一体が安置されています。

こうした地藏信仰が、鰻地区に定着したの

は、ここに「地獄」があったためでしょう。

今もなお、近隣の村人たちによる信仰あつい

ものがあります。(特に、一月十五・十六日

の地藏さん祭りの日)

また、この板碑には、北朝年号が使用され、

この地が、北朝方の勢力圏だったことをうか

がい知ることができます。

造型的には、関東の板碑によく似て、その

古式を伝え、歴史上貴重な資料です。

小川六蔵幡附近の地図



町指定
有形文化財

小川六地藏幢

(指定 昭和四十九年七月十六日)

六地藏幢は、六道を輪廻している衆生を救うものとして、室町時代に多く造立されました。

この幢には、小川の豪族とおもわれる法名「雲心浄秀上座」とその妻が、天文二十二年（一五五三）約四三〇年前）生前に「現世安穩」と死後の「安楽国への往生」を願う旨を記した銘文があります。

この幢は、幾百年の間、小川の村人たちが死者に対する供養として大切に保存してきたものであり、銘文・造型ともに当地方を代表する貴重な資料です。

正龍寺宝珠付角柱石塔婆附近の地図



町指定
有形文化財

正龍寺宝珠付角柱石塔婆

(指定 昭和四十九年七月十六日)

正龍寺宝珠付角柱石塔婆には、阿弥陀三尊・釈迦三尊・金胎大日如来とを彫出した薬研彫の梵字（種子）が刻まれています。

銘文によれば、源上人なる人物が、戦国時代に永禄十年（一五六七）約四二〇年前）山川に於て、二十一日間逗留し、多くの人びとを集めて念仏講をおこなったことが理解されます。

この塔婆は、当時の信仰の実態を偲ばせるだけでなく、池田半人助夫婦と網屋与左衛門允夫婦という経済的支援者の俗名を明記し、かつ造型上からも貴重な資料となっています。

成川板碑附近の地図



町指定
有形文化財

成川板碑

(指定 昭和四十九年七月十六日)

成川板碑のある高台は、鳴河を治めた鎌田氏居城の跡と伝えられ、「西殿」と呼ばれています。今もなお、「から堀」の跡がのこされています。

銘文によりますと、戦国時代・天正四年（一五七六）約四一〇年前）鎌田政成が、西国三十三ヶ所の観音の霊場を巡礼したことが理解されます。群雄割拠の戦国の世に、遠く近畿地方にまで巡礼した政成の信仰の深さがしのべられます。

当地方におけるこの時代の板碑は、ほとんど角柱型ですが、これは、関東の板碑によく似て薄型です。当時の信仰の状況と造型の研究上貴重な資料です。

旧正龍寺跡墓石群附近の地図



町指定
有形文化財

旧正龍寺跡墓石群

(指定 昭和五十六年十月六日)

この旧正龍寺は、薩州山川海雲山正龍寺と
いい、山元氏が創建したといわれています。
開基の年代は不明です。

明徳元年（一三九〇）約六〇〇年前）名僧・虎森

和尚がまねかれて再建にあたりました。

その後、多くの名僧を出し、京都の儒家・
藤原惺高をも驚かす学問的水準の高さを誇
り、薩摩文教の府とさえいわれました。

また、貿易港・山川港にはいる外国船の外
交文書の授受にもあたっていました。そのた
めに豊臣秀吉の検知による知行の没収をもま
ぬがれました。

しかし、明治二年の魔仏き釈により、魔寺
となりました。その時散逸したものを集めた
のがこの墓石群です。

田の神石像附近の地図



町指定
有形文化財

田の神石像

(指定 昭和五十六年十月六日)

この田の神像は、明和八年（一七七七）に成川下原の二才中が造立したものです。

二百十年をへて、シキをかむった表情が、かすかに偲ばれます。

短い上着にタスキをかけ、下着は裁着袴をつけています。右手には、小さなメシゲ、左手には、団子ふうの物をのせています。薩摩地方に多くみられる田仕事姿の田の神像です。おそらく、成川の開田事業をおこなった時の水田稲作の守護神として作られたものでしょう。

均整のとれた安定感のあるこの像は、古い田の神像の南限を示すものとして貴重なものです。

地頭仮屋跡石堀附近の地図



町指定
有形文化財

地頭 飯屋跡 石堀

(指定 昭和五十六年十月六日)

ここ町役場庁舎をとりかこんでいる石堀は、地頭飯屋時代のものです。

地頭飯屋とは、江戸時代に山川郷の政治をつかさどっていた役所です。暖・横目・組頭の三役がおかれていました。

暖は、郷士年寄ともよばれ、郷内全般の政務をつかさどっていました。横目は諸務取次、検察訴訟にあたり、また組頭は、郷士の指導と飯屋の警備にあたっていました。

現在、北側と南側は、ほとんど原形を留めていませんが、東側と西側は大部分が残っています。明治初年に地頭職制が廃止されてからは、軍政所・学校と変遷をへて今日にいたっています。

成川十一面観音座像及び石殿附近の地図



町指定
有形文化財

成川十一面観音座像

及び石殿

(指定 昭和六十年十月二十四日)

この観音及び石殿は永祿九年（一五六六）

四二〇年前（鎌田政成によって造立されました。

杉木立の中にひっそりと立っているこの石殿は、高さ約百四cm、屋根の正面と軒に銘があります。この石殿の中には仏像を彫出した板石をおさめています。

観音は、板石に薄肉彫でほられており、左脇に銘があります。（板石の高さ約四十三cm幅約三十cm）像の高さは約三十八cmで、両手にそれぞれ蓮華を持っておられます。

なお、板石の銘「永祿」の「尸」は祿の「水」を欠いています。なぜこのように彫られているのか明らかではありません。

銘文の解読とともに、今後の研究がまたれるところです。

前田利右衛門墓石附近の地図



町指定
有形文化財

前田利右衛門墓石

(指定 昭和 六十年十月二十四日)

この墓石は、享保四年(一七一九)一七〇年前に造立されました。

前田利右衛門は宝永二年(一七〇五)、琉球からはじめて甘藷の種子芋を内地にもたらし、岡児ヶ水に植えつけました。その後、しだいに国内にひろまり食用として多くの飢餓を救いました。

その功績をしのび、多くの人が調査研究に訪れますが、今残されているものはこの墓石だけです。

また墓石のかたわらに設置されている河野・佐々木両家による頌徳碑も利右衛門の事跡を知るとともに、両家と利右衛門との関連をしのばせる大切な資料です。

「山川の文化財」才8集

発行日 昭和62年3月31日
編集 「山川の文化財」編集委員会
発行 山川町教育委員会
掛宿郡山川町新生町84
TEL 09933⑤2982
印刷 (有)指宿新生社印刷
TEL 09932④2002



